

SAITO Chihiro

齋藤 千宏 サイトウ チヒロ

教授

経済学修士（龍谷大学）

同志社大学経済学部卒業(1976)、龍谷大学大学院経済学研究科修了(1989)、シャプラニール=市民による海外協力の会バンングラデシュ駐在員(1977~1981)、大阪 YMCA 職員(1982~1988)、龍谷大学等非常勤講師(1992~1996)、シャプラニール=市民による海外協力の会代表(1995~2001)、日本福祉大学赴任(1997)、名古屋大学大学院国際開発研究科等非常勤講師(1999~2005)、通信教育部長(2005~2007)、国際福祉開発学部長(2008~2010)。

#### 【研究分野】

国際社会開発。

#### 【キーワード】

エンパワーメント、持続可能な発展、ガバナンス、知的所有権を超える。

#### 【担当授業科目】

学 部：開発とNGO、国際フィールドワークⅠ、総合演習、開発教育、比較文化論。

通学大学院：（修士課程）論文指導、地域社会システム論、（博士課程）論文指導。

通信教育部：環境と開発、国際福祉開発。

#### 【主な研究テーマ】

1. 社会発展を生み出す社会的条件
2. 南アジアにおけるNGOによるアドボカシー
3. 先住民族社会の「知識」と生物多様性の保全

#### 【主な研究業績】

##### <著書>

- ・『国際開発』（日本福祉大学通信教育部テキスト）総頁322p、共著、「第3講 環境と開発」pp. 27-37、「第28講 連帯経済」pp. 299-311、日本福祉大学、2009. 04。
- ・Foundations for Local Governance 総頁301p、共著、「Contrasting Experiences of Decentralization in Two States in India」pp. 93-111, Springer, 2008. 01。
- ・『グローバル問題とNGO・市民社会』総頁324p、共著、「貧困・開発とNGO—頭領する南のNGO」pp. 54-74、明石書店、2007. 09。
- ・『社会福祉専門職論』総頁263p、共著、「国際福祉開発の最前線」pp. 250-262、中央法規出版、2007. 07。
- ・『援助とエンパワーメント』総頁234p、共著、「ケーララ州の開発経験とエンパワーメント言説」pp. 85-103、アジア経済研究所、2005. 02。
- ・『環境と開発』（日本福祉大学通信教育部テキスト）総頁148p、とCDROM、編著、日本福祉大学、2004. 03。
- ・『参加型開発の再検討』総頁210p、共著、「住民参加とNGOの役割—ムンバイ・スラム開発同盟を事例に」pp. 135-164、アジア経済研究所、2003. 03。
- ・『持続的発展と国際協力』総頁295p、共著、「社会開発におけるNGOの役割」pp. 257-271、放送大学教育振興会、2003. 03。
- ・『参加型開発』総頁248p、共著、「市民と政府の協働—インドの県民皆識字運動の成果と限界」pp. 187-213、日本評論社、2002. 03。
- ・『開発学概論』（日本福祉大学通信教育部テキスト）総頁283p、共編著、日本福祉大学、2001. 03。
- ・『学び・未来・NGO』総頁345p、共著、「外国NGOの試行錯誤の実際」pp. 115-129、新評論、2001. 03。
- ・『現代のエスプリ376号 エンパワーメント特集号』総頁194p、共著、「南アジアの開発とNGO」pp. 98-109、至文堂、1998. 11。

- ・『アジアにおける社会発展と人権—アジア太平洋人権レビュー—1998』総頁270p、共著、「インドのグローバリゼーションと先住民族の権利—生物多様性に関わる伝統的な知識の所有をめぐる」pp. 183-199、現代人文社、1998. 07。
- ・『ハンドブックNGO』総頁260p、編著、明石書店、1998. 04。
- ・『NGOが変える南アジア』総頁260p、編著、コモンズ、1998. 04。
- ・『NGO 国際ボランティアレポート』総頁230p、単著、明石書店、1997. 08。
- ・『事典東南アジア』総頁617p、共著、「NGOの活動」pp. 522-523、弘文堂、1997. 03。
- ・『NGO大国インド』総頁275p、編著、明石書店、1997. 02。
- ・『アジアからみるアジアをみる』総頁378p、共著、「ODAドナーの類型化と特徴—バンングラデシュを中心に」pp. 358-376、阿吽社、1994. 03。

##### <論文>

- ・「南アジアに見る人間開発の新たな潮流—福祉サービス供給の多元化の視点から」、『NIRA政策研究』Vol. 14 No. 10、単著、総合研究開発機構、2001. 10、pp. 7-11。

##### <その他>

- ・<エッセイ>「国際開発協力へのBRAC（バンングラデシュNGO）からの示唆」、『貧困のない世界を目指して—国際開発学会20年の歩み—」、同友館、2010. 09、総頁244pのうちpp. 151-153。
- ・オンデマンド教材『開発とNGO』、2009. 12。
- ・オンデマンド教材『国際福祉開発』制作代表、2007. 08。
- ・オンデマンド教材『福祉経営序論』制作代表、2006. 08。
- ・雑誌『オルタ』の特集「市場制度でCO2はほんとうに減らせるの？」（編集と執筆）、2006. 05。
- ・雑誌『オルタ』の特集「インド・ケーララ発市民力」（編集と執筆）、2004年8・9月号、2004. 08、pp. 8-13。
- ・<書評>The Empowerment of Women in India:Grassroots Women's Network and the State、『アジア経済』第40巻第7号、1999. 07、pp. 72-77。
- ・<翻訳>『市民・政府・NGO』（原題 Empowerment—The Politics of Alternative Development, John Friedmann）、新評論、1995. 05、総頁315p。
- ・<書評>William Foddy, Constructing Questions for Interviews and Questionnaires: Theory and Practice in Social Research, Cambridge University Press, 1993、『アジア経済』第35巻第3号、1994. 03、pp. 76-78。

##### <学位審査>

修士学位審査（主査：21件）

##### 【社会における活動と仕事】

（財）自治体国際化協会 自治体国際協力アドバイザー（2001～）、国際開発学会 理事（2002～2010）、シャプラニール=市民による海外協力の会 評議員（2009～）。